

2.5 人に対する影響

人に対する影響についての知見は、事故による中毒や職業暴露の事例です。WHO（世界保健機関）の国際がん研究機関（IARC）では、ダイオキシン類の中でも最も毒性が強いとされる 2,3,7,8-TCDD については、事故などによる高濃度暴露の際の知見から人に対する発ガン性があるとされています。また、ダイオキシン類は、人工物質の中で最も毒性が強い物質といわれていますが、これは多量に摂取した場合の急性毒性によるものです。

ダイオキシン類は、意図して作られることはないため、通常的环境中や食品中に含まれる量は超微量です。なので日常の生活における食事等の暴露では発ガンなどの明らかな健康影響は報告されていません。また、先に述べました急性毒性には、日常の数十万倍くらいは摂取しなければ現れません。